

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表（公表）

2026年4月実施

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用児童が安心して活動できるよう、個別活動と集団活動の内容に応じてスペースを使い分け、適切な環境設定に努めています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用児童の人数や特性に応じて、常勤職員と非常勤職員を組み合わせながら、必要な支援が行える職員体制を整えています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもが見通しを持って過ごせるよう、活動ごとに空間を分けるとともに、障害特性に応じた視覚的支援や環境調整を行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃や消毒を継続し、子どもたちが安心して快適に過ごせるよう、衛生面と安全面の両方に配慮しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		着替えやクールダウン、気持ちの切り替えが必要な場面に対応できるよう、個別に使用できる空間を確保しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		月1回のミーティングや日々の打合せを通して、職員が課題を共有しながら、支援や業務の改善に継続的に取り組んでいます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表を活用し、ご意見やご要望を把握したうえで、今後の支援や運営の改善に生かすよう努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のカンファレンスやグループチャット等を活用し、職員間で意見交換を行いながら、必要な改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		外部の専門家や顧問からの助言を参考にしながら、支援の質や業務体制の見直しに取り組んでいます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修への参加に加え、事例検討会や内部研修を実施し、職員全体の専門性向上を図っています。	

	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、内容が分かりやすく伝わるよう公表しています。	
適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		発達状況や課題、保護者の意向を丁寧に把握したうえで、一人ひとりに応じた個別支援計画を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、関係する職員が情報を共有しながら、子どもの最善の利益を踏まえて計画を検討しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画や日々の記録を職員間で共有し、共通理解のもとで継続的な支援を行っています。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツールに加え、日々の観察や記録を活用し、多面的に子どもの状況を把握しています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」および「家族支援」については、子どもの実態や保護者のニーズを踏まえて個別支援計画に反映しています。また、「移行支援」や「地域支援・地域連携」についても、必要性が高いと判断されるケースでは関係機関との連携や情報共有を行い、個別に対応しています。	今後は、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」についても、必要時のみの対応にとどまらず、計画作成時に支援の必要性を確認する視点をより明確にしていきます。あわせて、支援内容が抽象的にならないよう、実施方法や連携先、実施時期等を含めた具体的な記載を心がけ、計画の質の向上につなげていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動内容は職員が協力しながら検討し、チームで立案・実施しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの発達段階や興味関心に応じて、曜日や時期ごとに活動内容を工夫し、プログラムが固定化しないよう努めています。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の発達課題や特性を踏まえ、個別活動と集団活動を組み合わせながら、適切な支援を行っています。	

20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日のカンファレンスで、その日の支援内容や役割分担を確認し、職員間で共通理解を持って支援にあたっています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後はグループチャットや翌日の打合せを通して情報共有を行い、支援の振り返りに生かしています。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容を記録し、必要に応じて保護者とも共有しながら、支援の見直しや改善につなげています。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを実施し、保護者との面談や関係機関からの情報も踏まえながら、計画の見直しを行っています。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせで支援を行っているか。	○		ガイドラインを踏まえ、子どもの実態に応じて複数の基本活動を組み合わせた支援を行っています。	
25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		安全面に配慮しながら、自由活動や日々の選択場面を活用し、子ども自身が選び決める経験を大切にしています。	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		必要に応じて、子どもの状況を把握している職員が会議に参加し、適切に情報共有や意見交換を行っています。	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と連携しながら、子ども一人ひとりの状況に応じた支援体制づくりに努めています。	
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者を通じた情報共有に加え、必要に応じて学校の情報も確認しながら、送迎や下校時刻等の調整を行っています。	
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	保護者から依頼があった場合には、就学前に利用していた保育所や児童発達支援事業所等を訪問し、子どもの様子や支援上の留意点について情報共有を行っています。連携にあたっては、保護者の意向を尊重しながら進めています。	

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	現時点では該当事例はありませんが、今後必要なケースが生じた際には、支援内容等の情報提供を適切に行えるよう備えています。		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	地域の児童発達支援センター等が実施する研修や助言の機会を活用し、支援の専門性向上に努めています。		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。			○	現時点では、放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもと一緒に活動する機会は設けていませんが、子どもの特性や安全面を考慮しながら、地域との関わり方について職員間で検討を行っています。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。			○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		○		HUGや送迎時のやり取り、定期面談等を通して、子どもの様子や課題について保護者と継続的に共有しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。			○	集中的な家族支援プログラムとしては実施していませんが、日々の保護者連携や面談の際に、家庭での対応方法や関わり方について個別に助言や情報提供を行っています。必要に応じて、子どもの特性に応じた具体的な支援方法を共有しています。	
保 護 者 へ	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○		契約時に必要事項を丁寧に説明し、不明点についてはその場で確認・対応できるようにしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○		本人や保護者の意向を丁寧に聞き取り、その内容を踏まえて個別支援計画に反映しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○		面談時に支援計画を示しながら説明を行い、内容にご理解いただいたうえで同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○		面談だけでなく、電話やチャット等も活用し、必要に応じて随時相談に対応しています。	

の 説 明 等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	現在、保護者会や父母の会、きょうだい同士の交流の機会は設けていませんが、保護者とは送迎時や面談時に個別に情報共有を行い、必要な相談対応に努めています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○	苦情受付体制を明確にし、相談や苦情があった場合には速やかに対応できるよう努めています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	HUGやチャット等を活用し、活動内容や行事予定、連絡事項を適宜保護者へ発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	個人情報を含む書類は施錠管理を徹底し、廃棄時も適切な方法で処理しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	視覚的支援やICT機器、個別面談などを活用し、分かりやすい情報伝達に努めています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	ハロウィンやクリスマス等の行事の際には、地域とのつながりを意識した取組を行うことがあります。地域に開かれた事業運営の必要性を意識しながら、行事ごとに対応を行ってきました。	現在は、地域住民を招く取組が単発的で、年間を通した計画には位置付けられていないため、今後は地域交流に関する年間計画を作成し、継続的に地域に開かれた事業運営を進めていきます。あわせて、地域住民や関係機関が参加しやすい企画内容や周知方法についても工夫していきます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	事故防止、緊急時、防犯、感染症対応等の各種マニュアルを整備し、定期的な研修や訓練を通して周知しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	BCPを策定し、避難訓練等を定期的に行うことで、非常時に備えた体制整備を進めています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○	保護者からの聞き取りを通して、服薬や健康状態等の必要な情報を事前に確認しています。	

非常時等の対応

49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在対象となる利用児童はいませんが、該当がある場合には医師の指示書に基づいて適切に対応できる体制を整えています。	
50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、職員研修や避難訓練等を実施し、安全管理に配慮した支援を行っています。	
51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	子どもの安全確保に関する取組については、連携が必要な保護者には個別に説明を行うとともに、防災訓練等の重要な取組についてはHUGシステムを通じて周知しています。必要に応じて個別対応を行っています。	今後は、一部の保護者への周知にとどまらず、安全計画に基づく取組内容を全保護者に対して分かりやすく周知できるよう改善していきます。契約時や面談時、各種おたよりやHUG等を活用し、非常時対応や訓練実施内容について定期的に情報発信を行う体制を整えていきます。
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットや事故報告を職員間で共有し、原因分析と再発防止策の検討を行っています。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関するマニュアル整備と職員研修を行い、保護者にも必要な説明を実施しています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。			当事業所では身体拘束は行っていませんが、今後も子どもの権利擁護を大切にしながら、適切な支援の実施に努めていきます。	

